

【高等学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A:十分達成できている	C:やや不十分である
B:おおむね達成できている	D:不十分である

学校名	佐賀県立唐津西高等学校	
1 前年度 評価結果の概要(概要)	<ul style="list-style-type: none"> 特別選抜の「特色ある教育課程推進指定校」で志願倍率は高かったが、本校の入学者数の募集定員の充足に向けて努力していきたい。 2学年の普通科コース制の学校設定科目の運用について協働体制を構築していきたい。 	<p>2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通科改革を推進し、各コースの下、生徒一人一人の主体的活動を促し、多様な進路の実現を目指す。 協働的な活動による、地域課題や自ら立てた課題の解決を通して、地域社会の未来を担う、志のある人材を育成する。

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標
	<ul style="list-style-type: none"> ①ふるさと唐津・佐賀を誇りに思い、地域社会に貢献しようとする生徒 ②文武に励むとともに、生徒会活動やボランティア活動にも積極的に取り組み、個性や能力の伸長に努めようとする生徒 ③社会のモラルやマナーをよく理解し尊重し、人間的なつながりを大切にしようとする生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 「双松の力」である「基礎力」「着眼力」「解決力」「発信力」「計画力」「改善力」の育成を目指し、探究活動を教育の柱とした学習活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題や自ら立てた課題を発見し、人とのつながりを大切にしながら解決に向けて意欲的に行動することができる人材を育成する。 	
<p>①地域に信頼され、選ばれる学校づくり</p> <p>②新しいコース制における校内体制の確立</p> <p>③探究活動・課題解決学習の推進と必要なスキルの習得</p> <p>④生徒が目指す多様な進路の実現を支援</p>				

5 重点取組内容・成果指標

重点取組			最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価 意見や提言
●学力の向上	○教師の指導力向上 ○生徒の授業理解度の向上	○生徒による授業評価の満足度80%以上 ○ICTを活用した授業に取り組んでいる教員の割合100%	・各学期末に生徒による授業評価アンケートを実施し、教師の授業改善に活用する。 ・初任研修や研修に併せて研究授業や相互授業参観週間を年間2回(7月、11月)設定し、授業研究を行う。 ・ICTを効果的に活用している教師の活用事例を紹介する。	A	・相互授業参観に対する意欲が変化し、延べ参加者数が、7月15名から11月の10名と増加した。 ・担当の呼びかけもあり、採点支援システム「百問繚乱」を活用してみようという先生の姿勢が見られた。	A ・授業評価アンケートからの結果を踏まえて、先生方の改善とその取組を工夫(ICT活用)することで授業評価の高い結果が得られたことは良い成果だと思います。 ・生徒による授業評価の実施や相互授業参観の充実など、授業改善に向けた取組が継続されている点も評価できます。今後教員間の学び合いを通して、探究活動と教科学習の往還がより深まることが期待します。 ・ICTや進路実現について100%という成果指標が素晴らしいと感じました。
	○進学意識の向上 ○多様な進路選択の支援と大学進学実績の向上	○3年生の多様な進路先の実現100%	・進路方針、進路情報を定期的に生徒・保護者に発信する。(進路講演会、進路だより、進路のしおり、進路情報誌等) ・生徒一人ひとりの進路希望を把握し、情報交換・情報共有を行う。 ・進路検討会や個別指導の充実を図り、進路希望や個人の適性に合わせた受験体制を整える。 ・進路希望の早期決定(大学訪問、オープンキャンパス参加)を促す。	A	・「学校は、生徒の進路実現に向けて、学力向上やキャリア教育の充実を図るため、様々な取組を行っている」と評価した保護者の割合は9割を超えている(12月)。 ・放課後特選を生徒の成績や希望進路にそって開講し、実施できた。 ・進路内定者86名である(1/20現在) ・進路検討会等の情報交換を計画通りに実施できた。 ・進路のしおりを発行し、生徒の進路決定に役立てることができた。	A ・キャリア教育について、進路講演会や進路ガイダンスを実施することで、生徒だけではなく保護者の意識も深まり、その高い評価が表れています。学校全体、特に先生方の熱意とその取組の結果であり、特に3年生への進路決定における対応が早期に、かつ、十分に行われた結果だと考えられます。 ・西高PRの中で進学を目指すなら西高がよいという意見が多くてよい点だと思います。 ・具体的取組のとおり実施されておりよいと思います。 ・探究活動や進路講演会、系統別ガイダンスの充実により、生徒が将来を見据えながら主体的に学ぶ環境が整備されていると感じます。進路内定状況や保護者アンケート結果からも、進路実現支援が着実に機能していることがうかがえます。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会的性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「他者を思いやる意欲ができた」と回答した生徒80%以上 ○情報モラルに関する意識及び知識を持っている生徒80%以上 ○図書貸出総数年間1500冊以上	・双松祭等の学校行事等後にアンケートによる振り返りを行う。 ・情報モラルや人権に関する講演会やHR活動を実施する。 ・期読書を活用して図書館利用を推進する。 ・魅力的な図書館行事や読書企画の開催と、図書館レイアウトの工夫をし、図書館に來場する生徒数を増やす。	A	・「他者を思いやる意欲ができた」生徒の割合は98.0%(12月)。 ・「情報モラルに関する意識及び知識を持っている」生徒の割合は96.0%(12月)。 ・新たな図書館行事を企画したり、生徒同士で本の紹介をする環境を整えたりした結果、1月15日時点での本の貸出冊数が1500冊以上、図書館利用者が3500人以上と昨年度を超える結果となった。	A ・他者への思いやりは、今後の進路にむけて大切なことだと思います。高校時代は社会に出る前の大切な3年間で、生徒の豊かな心の醸成に図書館の書籍利用などを活用された成果がでている。そして、他者を思いやる意欲や情報モラルに関する意識・知識の割合が90%後半となっていることは特段の工夫がされたことと推察されます。 ・生徒アンケートにおいて「他者を思いやる意欲ができた」との回答が高い割合を示していることは、学校全体に温かい人間関係が築かれてきたことと受け止めています。探究活動や学校行事を通して、生徒が協働しながら学ぶ姿勢が育てられている点は、大きな強みです。 ・図書館行事企画の導入により、長年課題とされていた図書関連の数値が向上していることも評価できます。今後は、キャリアパスポートと探究活動後アンケート等を効果的に連動させ、生徒自身が成長の軌跡を可視化できるポートフォリオの仕組みをさらに検討されることを期待します。 ・80%から90%という設定は少し高めな目標であると思うが素晴らしいと思う。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等について「組織的対応ができていた」と回答した教員90%以上	・多面的に生徒の状況を把握・理解し、組織として支援する。 ・欠席の多い生徒について、職員会議で情報共有し、共通理解を図る。 ・学校生活アンケートを年間3回実施する。 ・週に一度、生徒支援部会を実施し、生徒に関する情報を共有する。	A	・いじめ防止等について「組織的対応ができていた」と回答した教員員の割合は89%(12月)。 ・いじめの認知件数は1月時点で6件である。そのすべてにおいて、発見、管理職への報告、職員間の情報共有、会議の実施と対応を素早く行うことができた。 ・年間を通して月に1回、職員会議で気になる生徒の情報共有を行った。	A ・いじめ防止等について学校全体で取り組んでいることがアンケートから把握できています。この高い水準は、先生方や生徒、保護者との厚い信頼に基づいて評価が出ていていると思います。防止だけでなく認知した場合は適切な対応についても組織的対応が出来るから、この評価だと思います。
●健康・体づくり	●健康を考えて行動できる能力の育成 ●安全に関する資質・能力の育成	○朝食をとって登校する生徒の割合70%以上 ○再受診勧告を受けた生徒全員の再受診率70%を目指す ●交通マナーを守ることができている生徒80%以上	・集会等での呼びかけや保健だより等により意識の向上を図る。 ・Classiで生活習慣アンケートを実施し、結果を指導に活かす。 ・防犯教室を実施する。	B	・定期健康診査の受診率は、三者面談で受診を促し、内科20.0%、歯科14.0%、眼科40.0%、耳鼻科20.0%、視力7.0%、という結果であった。 ・「私は交通マナーを守ることができている」の割合は100%。 ・「交通安全」「薬物防止」「防犯情報セキュリティ」講座を実施し、交通マナーと情報モラルを守ることが人命と人権を尊重することであり、防犯にも繋がると学んだ(12月)	B ・健康意識向上のための保健便りは、生徒の正しい生活習慣について意識を向上させたと思うが、再受診率が目標に届かず改善の余地があると思います。 ・保護者との連携が必要であり、重要性を認識頂くように対応策を講じる必要があると思います。 ・朝食については、100%を目指したいが、なかなか難しい現実である。 ・再受診率向上など課題もありませんが、継続的な啓発や個別の声掛けが丁寧に行われていることがうかがえます。基本的な生活習慣が概ね良好である点は安心材料です。今後は、身体面のみならずメンタルヘルスを含めた包括的な健康支援の充実を図られることを期待します。
	○部活動の活性化	○部活動をとおして、主体性や自己管理能力が身に付いたと思う生徒の割合70%以上	・全体で部活動の取組を共有するとともに、リーダー研修会を開催する。 ・各部活動ごとのミーティングを推奨し、練習計画や振り返りを実施する。 ・表彰式を毎学期(年間計3回)行い、生徒の活動意欲を向上させる。	A	・「部活動や学校生活を通して、主体性や自己管理能力が身に付いている」の割合は94%。 ・部活動部長会を実施、SSP活動における物品購入について検討した。	A ・部活動の活性化は、表彰式や部活動部長会を実施したことにより、活動意欲が向上し、生徒の主体性や自己管理能力が向上したことは評価につながったと思います。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年次休暇取得日数の平均14日以上 ○10日以上の年次取得者の割合70%以上	・定時退勤推進日の設定(月曜日)とボード掲示や口頭による啓発を行う。 ・夏季休業中に学校閉庁日(8月8日～15日)を設定し、教職員が休暇を取得しやすい環境を整備する。また、年次取得状況を知らせる(7月)。 ・時間外在校等時間報告を、毎月行う。 ・資料の事前配布やSEI-Netの各機能を活用し、集約型会議の精選を図る。	B	・R7年(1月～12月)の年次取得日数が10日以上は18名(42.9%)であり、目標の70%に届かなかった。また、14日以上は5名(11.9%)、5日未満は4名(9.5%)であった。 ・年次休暇取得日数の平均は9.7日であり、目標の14日以上に届かなかった。 ・「働き方改革を意図して業務を行ったり、計画的な年休等の取得に努めることができた」教職員の割合は80%(12月)であった。 ・時間外在校等時間(4～12月)の45時間超過の延べ人数102人(昨年度108人)で、昨年度比14ポイント減少した。時間外在校等時間の合計では昨年度34時間21分が、今年度は33時間19分となり、1時間2分減少した。一方で、定時退勤推進日を定着させるには難しかった。	B ・定時退勤推進日年次有給休暇取得を促進されたが、結果として時間外在校等時間の削減が進むも、年次有給休暇取得目標は未達であるが、学校運営は困難な状況下であると推測されます。国、県で抜本的な対策を講じなければ改善されないと思います。 ・職員10日以上の年次取得は達成してほしい。
	○健康管理と心身の健康の保持増進	○定期健康診断(人間ドックを含む)受診率100%、及び再検査対象者受診率70%以上 ○メンタルヘルス講座(アンガーマネジメントを含む)の実施	・毎月1回、衛生委員会の報告と健康づくり情報誌Smileによる啓発を行う。 ・定期健康診断(人間ドックを含む)受診率は100%、再検査対象者受診率は79%(昨年度約86%)であった。(1月上旬現在)。 ・「自己の健康管理や心身の健康の保持増進に努めることができた」教職員の割合は73%(12月)。 ・臨床心理士を招聘し「教職員のメンタルヘルスとストレスマネジメント」研修会を企画し、8/20に実施した。	A	・毎月1回、安全衛生委員会を実施し、全職員に報告を確実にを行った。また、健康づくり情報誌Smileによる啓発を行った。 ・健康診断(人間ドックを含む)受診率は100%、再検査対象者受診率は79%(昨年度約86%)であった。(1月上旬現在)。 ・「自己の健康管理や心身の健康の保持増進に努めることができた」教職員の割合は73%(12月)。 ・臨床心理士を招聘し「教職員のメンタルヘルスとストレスマネジメント」研修会を企画し、8/20に実施した。	A ・臨床心理士による研修を実施されておりよいと思います。 ・探究活動の推進や新コース制の運用など挑戦的な取組を進める中で、教職員の負担軽減にも向き合っている姿勢が評価できます。教職員が心身ともに健全であることは、生徒支援の質に直結します。効率化のみならず、「教育の質向上につながる働き方」という視点を大切にしながら、持続可能な体制づくりを継続されることを期待します
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育や不登校に関する研修会の実施 ○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	・スクールカウンセラーによる職員研修会を実施する。(6月) ・学年情報会などを通して、教員が生徒理解や生徒を支援する状況づくりに努める。	B	・特別支援に関する専門性が向上した教職員の割合は51%(12月)。 ・職員会議のときに、支援が必要な生徒や長期欠席が続く生徒について情報共有を行った。 ・スクールカウンセラーによる職員研修を11月に行った。	B ・特別支援教育に関する専門性向上に、スクールカウンセラーによる職員研修会を実施し、職員会議や学年情報会などを通して、生徒について情報を共有することは大切なことである。 ・生徒の合理的配慮についても検討されるが、しかしながら、先生方の支援も限度があるように感じられる。この対応策については、保護者の理解も必要になるので専門指導員が必要ではないでしょうか？ ・特別支援が必要な生徒への対応は重要な課題であると考えます。 ・スクールカウンセラー以外の大人に傾聴してもらう場面を作ったあげたい気がします。 ・情報共有体制の整備やスクールカウンセラーとの連携など、組織的対応が図られていることがうかがえます。専門性向上については今後の研修充実によるさらなる深化を期待します。 ・人ひとりの状況に応じた合理的配慮を丁寧に検討されている姿勢は、生徒の安心感と信頼につながっていると感じます。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価 意見や提言
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★SAGA唯一無二の学校魅力促進事業モデル校として、学校運営協議会を活用した学校の活性化	★学校運営協議会を年間3回以上 ★自分の学校を中學生に勧めることができる生徒の割合75%以上、教職員の割合75%以上	・学校運営協議会を年間3回以上開催する。4月上旬に開催予定日を委員に伝えることで参加率を高める。 ・探究活動やボランティア活動において、学校運営協議会を中核とした地域連携を計画的に実行する。	A	・学校運営協議会を年間4回実施(4回目は開催予定)した。また、学校運営協議会の委員を中心に「総合的な探究の時間」に直接関わってもらうとともに、協議会では探究学習についてのアドバイスをいただいた。 ・「自分の学校を中學生に勧めることができる」生徒の割合は75%(昨年度77%)、教職員の割合75%(12月)と目標を達成できた。	A ・学校運営協議会の役割と運営として、総合的な探究を側面よりアドバイスを行い、また、アドバイザーの支援登録も広がりを見せ、新コース制導入における体制作りも一層整備されたと思います。今後は、より一層学校の活性化に繋がっていくよう支援をしたいと思います。 ・生徒自身も母校の良さを外に発信できるようになってほしい。地域社会や中學生からも望ましい学校として認知されるよう、先生方と共に、私たちの努力も必要だと改めて考えさせられました。
	★新コース制導入における校内体制の確立	★学校外のいろいろな人に話を聞きに行った生徒の割合70%以上	・1年生は、テーマ設定の種(ヒント)として、外部の専門家から「地域の魅力や課題」や「学習の視点からの課題解決事例」等の講演をしていただく。 ・2年生は探究活動が充実するように、ST(探究サポーター)の効率的な活用や地域アドバイザーを設置する。	B	・学校外のいろいろな人に話を聞きに行った生徒の割合は全校で51%(昨年度63%)となり、目標には届かなかった。 ・1年生は外部の方と話をする機会を多く設けるなど工夫をした。2年生は約80%の生徒が自主的に外部と連携した。キャリア教育や進路講演会等で外部人材を活用できた。 ・外部コンテスト等では、『大阪万博』発表や『佐賀県ふるさと学習コンクール』『佐賀県高校生DIY選手権』STEAM DAYS』で賞を受賞した。 ・探究活動の中心となる2学期を中心に、探究アドバイザー(学校運営協議会委員)に探究ルーム常駐していただき、アドバイスを受けた。	B ・まさしく、現在行っている「にしろ寺子屋」は、素晴らしい地域貢献活動であると思います。あわせて、日頃より積極的に地域行事へボランティア活動を通じて貢献していることは、自己成長への影響も大きく、地域社会の新しい発見につながるが郷土愛も増長される。将来への夢の原点となるだろうと確信しています。 ・探究学習については、ぜひ継続してさらなる広がりを目指します。 ・SNSは便利なツールですが、実際に人の話を聞き対面のコミュニケーション力をつける訓練にもなるので、積極的に外へ出てほしいです。成果指標70%→最終評価51% ・探究活動を教育の柱とし、地域と連携しながら学びを深めている点が、西校カラーとして確実に根付き始めていると感じます。特に、生徒主体の探究プレゼン大会や、その後学校の現状を全校で検討する姿勢が、大きなポイントが感じられます。一方で、学校外へ積極的に出ていく生徒とそうでない生徒との間に、経験値やモチベーションの差が生じやすいことも想定されます。すべての生徒が挑戦の機会を表現できるよう、伴走型の支援や小さな成功体験の積み重ねを意図した取組がさらに深化することを期待します。
○地域に信頼される学校づくり	○地域貢献・ボランティア活動の充実 ○学校内外への広報活動の充実と魅力発信の強化	★地域の人や課題など、興味を持って大人が関わる割合90%以上 ○学校HPやSNSを活用し、学校の教育活動の情報発信を行う。 ○中学校訪問及び中學生の学校見学会の充実を図る。 ○学校説明会や中学校訪問など学校PRの機会を年間20回以上行う。	・地域の様々な行事や活動を積極的に紹介し、参加を促す。 ・学校HPやSNSを活用し、学校の教育活動の情報発信を行う。 ・中学校訪問及び中學生の学校見学会の充実を図る。 ・学校主催の校外活動時はプレスリリースを行う。 ・探究プレゼン大会を校外で行い、外部の方にも案内する。	A	・「地域の人や課題など、興味を持って大人が関わる割合は87%(12月)で、目標に若干届かなかった。 ・学校行事を実施した際には学校HPへの掲載を継続した。また、インスタグラムによる発信など行い広報に努めた。 ・糸島会場、唐津会場での説明会に参加した。また、唐津市内の中学校15校、松浦市内の中学校1校に出向いて説明会を行った。11月には、管理職による唐津市内中学校訪問を13校で行った。	A ・地域に信頼されるには「交流」だけでなく「対話」が重要な点で、地域の会議に出席し、障がい者体育大会や保育園運動会での手伝い体験、また、地域の高齢者を高齢者がお世話しているサロンなどに参加して地域課題を考えてほしいです。 ・ボランティア活動や探究を通じた地域連携の取組は、地域に開かれた学校づくりとして高く評価できます。学校運営協議会を活用した外部連携も着実に機能していると感じます。今後は、これらの取組や成果をSNS等で積極的に発信することで、西校の魅力がより広く伝わり、「選ばれる学校」としての存在感が一層高まることを期待します。

6 総合評価・次年度への展望(簡潔)	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり</p> <p>令和7年度の重点目標の振り返りについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ①本校を中學生に勧めることができる生徒の割合が増加し、特別選抜における「特色ある教育課程推進指定校」の募集枠での志願倍率は高かった。募集定員の充足に向けて、広報の工夫が必要である。 ②学校運営協議会の協議委員や地域の企業・自治体・大学などの探究サポーターや唐津ラボなどの外部との連携が進み、生徒の探究活動に対する主体的な意欲は高まってきている。 ③統計講座やプレゼンスキル講座、探究サポーターからの指導などの機会を得て、生徒の探究活動の知識や技能が向上し、学校内外での活動や発表機会も増えて活発化している。 ④生徒が目指す多様な進路実現に向けた、普通科コース制の充実した教育活動について検討することができた。今後は、持続可能で充実した教育内容や指導体制の構築のため、継続的に教育活動のブラッシュアップをしていきたい。
--------------------	--